

2020年 1月号
No.271大津島データ 169 世帯
人口 230 人 男 95 人 女 135 人
高齢化率 80.0%
(令和元年 11 月 30 日現在)

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



潮流

昨年は敬老会が当日快晴の中、2年ぶりに開催されました。また、記念すべき30回を迎えたポテトマラソンもスタッフ・若潮の会・地元関係者のご協力のおかげで無事に開催することができましたことに改めてお礼を申し上げます。

平成30年7月豪雨による災害復旧工事も無事に終了し、11月上旬より通行可能になったことで大津島がまた一つに変わったことを実感しています。

本年も地域とのつながりを大事にしながら取り組みを進めてまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

新しい年が皆様にとって幸多い年でありますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和2年元旦 大津島地区コミュニティ推進協議会
会長 安達 壽富
事務局長 伊藤 浩司



謹賀新年

あけましておめでとございます
皆様には健やかに
新年をお迎えのこと
お慶び申し上げます



第30回 大津島 ポテトマラソン 開催



12月1日(日)第30回大津島ポテトマラソンが開催されました。

一昨年は、豪雨災害の影響により、中止となりましたが、今年は道路開通(11月)により、無事開催することができました。

今大会は、10マイルの部、2キロの部、5キロの部、10キロの部があり、ウォーキングの部は、ありませんでした。市内外から参加した221名がゴールをめざしました。

当日は、天候にも恵まれ、ランナーの皆さんは、冬の津島の空気、景色を満喫しながら、快走されていました。

走り終わったあとは、名物芋汁もふるまわれました。今年の芋は、若潮の会や地元の皆さんで作ったものでした。

準備期間も少ない中で、無事開催できましたことは、皆様のご協力のおかげです。ありがとうございます。

文川 原田・大友

これからよろしくお願いします



大津島支所 沖 武士

11月1日付けで大津島支所に勤務することになりました。周南市の住民でありながら大津島には過去に2回しか来たことがありませんでした。支所の業務は初めてですので、まずは大津島の皆さんに名前を覚えていただき、地域の役に立てよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



デイサービスセンター 伊藤 史枝

私は、周南市新宿通りに住んでいます。四男二女の母親です。この度、島に住んでいらっしゃる方々とふれ合う機会が与えられ楽しみにしています。宜しくお願いします。

お世話になりました

11月1日付けで大津島支所 有井主査は、周南市役所 経済産業部 水産課へ異動になりました。

皆様あけましておめでとございます。晴れて令和2年となりました。本年も宜しくお願い致します。

さて、昨年の事になりますが、令和元年11月10日(日)に回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式が回天記念館にてしめやかに執り行われました。今年はアメリカからのゲストをお呼びしたこともあり、例年より100名程度多い来場者数でしたが、大きな混乱も無く無事に終える事ができました。前日ならびに当日の関係者の皆様のお力添えあつてのことです。誠に有難うございました。

毎年ほぼ同じ進行内容ではあるものの、胸章にしても音響機器にしても万が一忘れ物があると、すぐには取りに行けない物理的距離がある為、緊張感が消える事は無いのが率直なところでは、個人的には、前日に島中の椅子約400個をかき集めて軽トラで運んで会場に並べる作業に終始したことが原因で、今では椅子を見るのも嫌になりました(冗談ですが)。前回までは、島外から椅子を運ぶという少々非効率な事をしました。今後は島の中で完結できるのは良い流れと考えています。ただ、当日の受付

「ONETEAM@大津島」

文川馬島待合所 内山剛

時や弁当配布時のオペレーションに改善点が見受けられ、反省材料としております。何事も完璧に行う事は難しいですが、完璧を目指していく必要があると感じます。また、ここでラグビーネタを挟ませて頂くと、昨年の流行語大賞である「ONETEAM」を追悼式当日に感じた一幕ならぬ一幕がありました。1つは顕彰会会員の体調不良による転倒時、善意で行動して頂いた皆様による迅速な搬送作業。とりわけ、小西美徳さんにはご自身のボートで当人を徳山までお運びくださいました。その後、本人も大事には至らず安堵しております。もう1つは、大津島地区コミュニティ推進協議会ならびに大津島支所の方々の迅速な撤収作業。前日顕彰会関係者で並べるのに1時間近く掛かったのが、ベテラン陣の力を持ってしたらものの数十分で片付け、軽トラに積み終わるスピーディさにびっくりしました！今後別の場面で、私自身もその「ONETEAM」の一員として貢献できればと思っております。

今後はこの回天追悼式を通じて、大津島住民の1人として平和の尊さを伝えていければ幸いです。



アイランダー2019
に参加しました。



文＝大友翔太

若潮の会通信 No.32



文＝渡邊宗彦



島食堂ひなた

文＝磯中皆美

11月23日(土)～24日(日)。東京・池袋サンシヤインシティ(文化会館ビル)にて、アイランダー2019が開催されました。

大津島からは、伊藤支所長と大友が参加しました。今年も昨年同様に、拓殖大学の学生が10名参加し、アンケート調査100部、大津島の観光・移住の情報発信、他島との交流、物販を行いました。

物販では、すだいだいじール100本、美代子さんの籠18個、磊ノ島トートバックを4つ販売しました。毎年参加することで、年々東京での大津島の知名度が上昇しています。また来年、更なる集客、更なる物販の売上金が出せるように頑張ります。

ドローンを購入し、飛ばし始めたのは1年半位前からです。

私の持っているドローンは1回の充電で約30分間飛ぶ事が出来ます。安全性は優れていて、障害物は自動でよけてくれます。バッテリーが少なくなったり、電波が途切れたら離陸した場所に自動で帰ってきます。ドローンには送信機にタブレットが付いていて、ドローン本体からの映像がリアルタイムに見えます。ドローンに乗って自分で操縦して飛んでいる感覚です。空からの景色はとても感動的です。2019年の正月に帰省した時に、馬島から洲島までの上空を空撮してみました。18歳まで住んでいた所が全く別の世界のように、海と山がとても綺麗に見えました。この動画を観た野間さんからの依頼で、2019年5月に三ツ石、刈尾、本浦、近江、柳ヶ浦、馬島を空撮しました。この時撮った映像を姉に編集して貰いましたので、ご覧になった方もいらっしやると思います。11月には天ヶ浦、瀬戸浜、倉の窪を撮っています。これからも故郷の大津島を撮り続けて、また皆さんに見ていただきたいと思っています。

皆さんこんにちは。島食堂ひなたです。今年もあと少しとなりました。おかげさまで、私たちひなたのお店も無事、初めての年越しを迎えることができそうです。

お店のオープンから7ヶ月が経ちました。今、振り返ってみるとひなたのオープンから始まり、島マルシェ、暑い暑い夏、敬老会やイベントの出店など、毎週、毎月あれよあれよと過ぎていきました。私自身、季節の移り変わりを肌で感じ、とても気持ちの良い日々でした。そして、春夏秋冬と、その時の野菜や果物や植物、どれも季節をきちんと知らせてくれる大切なものなんだと、改めて感じる事ができました。また来年から、島食堂ひなたから色々なことが発信できるよう努めて参ります。

また来年も島食堂ひなたをどうぞ、よろしく願います。

※ 松田翔剛 【羊の羽は丘にあり】の1月号は、記載事項が多いため、休載いたします。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
3月1日 第272号

【1月～3月の主な島の行事予定】

1月31日(金) 税の申告相談
2月11日(祝) 建国記念行事・文化祭

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

▼預託者 匿名 金1万円(大津島社協)

【編集後記】

明けましておめでとうございます。昨年は、平成から令和へと元号が変わり、私も大津島での最初の年となりました。色々とはたはたすることもあり、あっという間に月日が流れたように思います。島の皆さまには、すごく助けられました。又、一昨年の災害で道路が通行止めと不便な生活でしたが昨年やっとの事で道路が復旧いたしました。今年は、暴風・大雨と心配ないようお願いいたします。
文責：原田 和保

知っちょるかね

昔日の訪問

文＝松本千恵子



人間生きていれば思いもかけない出会いもある。ある日仕事場で自転車借りて出かけた兄を待っていると言う人と話していたらその人が「私、子供の頃にここに住んでいたんですよ」と言う。そこで島出身の人だと思い「どの辺りの、苗字はなんですか」と聞く、島の出ではなくお父さんが校長先生で、一家で島に住んでいたのだとのこと。名前を聞くと、「能美と言っんですけど、私の事を松本さんと同じくらいじゃないかと回天記念館の人に言われてここに来たんですよ」と言われてまたびっくり。能美校長先生、背の高い細い優しい先生だった。

そう、確か高校生の息子さんが船で通っていてそのころの島では珍しかったので、余計に記憶に残っていたのだと思う。その事を伝えるとなんと先ほど自転車借りて行ったお客さんが、その人なのとのこと。ますます打ち解けて、失礼ながら生まれ年を聞くと、二十六年生まれと言う。「ああじゃあ、私は一級上です同級生にこれこれの人がいませんでしたか」の問いに「それがね、恥ずかしいんですが、誰の名前も思い出せないんですよ」と答え、「でも景色とか出来事なんかはよく覚えていて、ここなんかは瓦礫の中でしたよね」という。そう、私達が小学生の頃は、まだこ

徳山湾見聞録

19 鵜飼いのうは海のうだったのです

文＝回天記念館 三崎英和

徳山湾内にはいろいろな海鳥が生息していますが、最もよく見かけるのはカモメですよね。そのカモメと比較すると数は随分少ないですが、真っ黒なウミウも目にすることがあります。

ついこの前も、刈尾の近くの海岸付近で、小さな魚をくわえて飛び立つウミウを見つけました。

一般的にはウといえは川に生息するカワウを想像することが多いようです。しかし、川にいるからカワウ、海にいるからウミウと、単に文字から連想される生息地を鵜呑みにしてはいけません(ちよっと言葉の使い方に無理がありますけどお許しください)。実は海にもカワウが、川にもウミウが生息している場合もあるのです。

そんなカワウですが、営



イラスト 三崎英和さん